

平成29年度 第2回子ども未来応援会議 議事録 【要約】

日時：平成29年10月5日（木）

13時30分～15時30分

場所：藤枝市役所3階会議室

主催：藤枝市教育委員会教育

子ども未来応援会議は、「教育日本一のまち藤枝」を目指し、次世代を担う子どもたちを健やかに育成するための教育環境の充実を総合的に推進するために組織され、学識経験者や教員、保護者、関係団体など17名の委員で構成されています。

第2回目の会議では、教育振興行動計画（後期計画）の素案について、多面的・包括的に意見・助言をいただきました。

発言者	発言内容等
委員長	<p>【委員長挨拶】</p> <p>今回も、実りある会議になるよう、皆さんに遠慮なく積極的にご発言をいただきたい。三島に独立型の三島スクールという不登校の学校がある。10年以上毎年1回講演に行っているが、毎年募集定員の3倍の応募がある。少子化で、私学も県立も学生が集まらない中、なぜこんなに人が集まるのか。これは、教育界に石を投げているのではないかと思う。教室を回ると、学生は生き生きとしていて、積極的に話しかけてくる。学生は学校がとても楽しそうである。このような学校があるということをご挨拶代わりに紹介させていただく。</p> <p>また、三島にあるファルマバレーの委員長を引き受けている。日本の社会がいよいよ頭脳産業の時代になっていると感じる。頭脳、知恵、美的感覚、センスというものが教育の中で重要になってきており、単純なものづくりでは生きていけない時代になっている。教育において、暗記ができる、ものを知っているだけではもう通用しない。今後の教育界が直面しているヒントであると思い紹介させていただいた。</p>
事務局	<p>【教育部長挨拶】</p> <p>前回の会議においては、前期計画の進捗状況について、ご意見をいただきお礼申し上げます。今回は、前期計画の後継計画でもある、後期行動計画の案を提示させていただいたので、内容について協議をお願いしたい。後期計画は、先日、皆様からいただいたご意見を踏まえ、作成している。子どもの「生きる力」や問題解決能力の育成、学校教育現場以外での学びの場の環境の充実など、新たな事業も盛り込んでいる。先日、静岡県においても、県教育振興基本計画の第1次案について、有識者でつくる推進委員会で示された。その中には、グローバル人材の育成のための、海外留学や相互交流の促進、新学習指導要領に対応するための外国語教育の充実、科学技術の発展を担う人材の育成等を計画の柱として示している。本市では、英語教育や科学教育にはすでに積極的に推し進めている。本市としては、国や県の動きも踏まえながら藤枝市らしい行動計画を策定していきたい。皆様には、様々な分野から様々な意見をいただきたい。</p>

委員長	教育振興行動計画（後期計画）素案について、事務局より資料の説明をお願いしたい。
事務局	<p>全体として、藤枝市教育振興行動計画の上位計画となっている藤枝市教育基本計画は10か年の計画になっているため、施策体系全体の変更は行っていない。</p> <p>後期計画については、子ども未来応援会議の意見をもとに、関係各課に調査を行い、前期計画策定当初にはなかったものや、これから始める新規事業を追加し、事業が完了したものは削除、事業内容や事業名が変わったものについては、変更等を行った。その結果、関係する24の課・室より、193の事業及び取組、うち、再掲44事業のため、実際には149事業、そのうち、新規事業が44事業となっている。関係各課、総事業数共に増え、本計画は以前より幅広い分野に渡って施策を実施していくこととなる。</p> <p>また、新設、削除、変更した内容は、新旧対照表に示させてもらった。</p> <p>【主な変更点について】</p> <p>「施策2 家庭教育を地域ぐるみで支援」の「施策の指針」が、前期計画では「1. 家庭の教育力向上に向けた支援」「2. 家庭教育に関する啓発」となっていたが、事業内容が重複しており、区分が不明瞭だったため、「1. 家庭の教育力向上に向けた支援・啓発」とし、2として、国でも謳っている「学びのセーフティネット」に関する指針を追加した。その「学びのセーフティネットの構築」の中には、具体的施策として、生活困窮者に対する学習支援に関する事業や「子ども食堂支援事業」、「藤枝型奨学金制度」、「外国人児童生徒適応指導」などを追加した。</p> <p>前回の子ども未来応援会議でも意見のあった「生きる力」を身に付けるため、「施策6 国際感覚を伴った英語運用能力の育成」「施策9 創造力・問題解決力を育むための機会の創出」の事業の充実を図った。</p> <p>これらの施策は、来年3月に策定する2018年度から2021年度までを計画期間とする県教育振興基本計画の第1次案でも施策の柱として考えられているものである。</p> <p>【施策6 国際感覚を伴った英語運用能力の育成 について】</p> <p>「施策6 国際感覚を伴った英語運用能力の育成」では、平成32年度からの新学習指導要領への対応、さらに本市としての特色の強化のため、既に今年で2年目の実施となったが、ALTを活用した課外英語体験活動「Fujieda English Camp」や近年多くなってきた「海外からの教育旅行の受け入れ交流」、「英語資格試験受験料助成制度」などを追加した。これらを通じて、子どもたちが英語に興味を持ち、異文化理解や国際感覚を身につけ、グローバルな人材の育成につながることを目的としている。</p> <p>【施策8 確かな学力の育成と環境整備 について】</p> <p>8月の会議では、「教師の働き方」に関する意見が多くあった。「施策8 確かな学力の育成と環境整備」において、「スーパーティーチャーの派遣」や「小学校への専科教育の配置」「教員の働き方改革事業」等を追加することで、教師の多忙化を解消し、子どもたちと向き合う時間の確保につなげていく。</p>

	<p>【施策9 創造力・問題解決力を育むための機会の創出 について】 「施策9 創造力・問題解決力を育むための機会の創出」の事業としては、「JAXAとの連携協定事業」「わくわく科学教室」「ふじえだロボットアカデミー事業」など、大学などの専門機関や企業等と連携した理科学教育の推進につながる事業を追加した。より、専門的な分野に触れることで、学校以外でも、理科学に興味を持った子どもたちが、好奇心・探究心を深められるような機会の提供を図っていく。</p> <p>【施策10 子どもの特性を伸ばす教育の充実】 「施策10 子どもの特性を伸ばす教育の充実」では、学校教育のみで子どもの特性を伸ばす教育を充実させることは容易ではないため、前期計画の施策の指針「体験活動の充実」を、「校外活動の充実」に変更し、校外活動として、子どもの様々な特性を伸ばす機会の充実を図っていく。また、これらは「教師の多忙化解消」にもつながっていくものと考えている。</p> <p>【施策15 学びのネットワークの構築 について】 近年、大学等の専門機関や、企業、各種団体等との連携が強まっていることから、「施策15 学びのネットワークの構築」において、大学等専門機関や企業、各種団体との連携により、「JAXAとの連携協定事業」や子どもたちが市内の若手芸術家をと触れ合う「(仮称) Read Arts 事業」など子どもたちが異なる年齢の人々との出会いや、様々な分野の本物に触れる機会の充実を図る。</p> <p>【数値目標について】 前期計画では、28 事業のみに数値目標を設定していたが、子ども未来応援会議において、成果が見えにくいとの指摘もあったため、後期計画では同じ指標にしている事業も含め、93 の事業において数値目標を設定した。数値目標だけでは、事業の実施により、子どもにどのような変化が起きたのかなどは図れないとの意見もあり、数値目標を設定することだけでは十分ではないが、1つの判断材料としてより目に見える形に設定した。</p>
委員長	計画素案について、意見や日々思っていること、体験からなど意見をいただきたい。
学識経験者	県の計画もあるが、藤枝市の計画は実情を理解して、目指すところをしっかりと定めて計画を策定しており、とても進んでいると思う。ぜひこのまま藤枝市なりの計画を進めていってほしい。
団体代表	読書に親しむ環境づくりの中で、貸出がメインのように見受けられる。静岡市では、出張して読み聞かせなどを行っているが、藤枝でもそのような具体的な事業はあるのか。
事務局	数値目標の中では、図書の貸出数になってしまうが、実際には、図書の読み聞かせのグループがあり、その協議会があり、各学校や幼稚園に出向いて読み聞かせを行っている。この行動計画では見えにくくなってしまっているが、図書館3館でも読み聞かせは行っている。

学識経験者	<p>前回の会議では、事業数が多いという意見が多かったが、24 課という多岐にわたる事業を行っているのは、よいと思う。</p> <p>学校に関わる項目が増えると、増えた分、学校への希望の有無や資料作成など、教員の仕事が増える。たくさんの事業があることは、子どもたちにとっては理想的な環境であるが、事業を実施するまでの道のりを簡単にするなど、多忙化の面からしても、簡素化できればよいと思う。現場の先生は、たくさん良い事業がある中で手軽に実施できるような環境ができればと思う。</p>
事務局	<p>行政の様々な部署から学校で実施してほしいものが来ると、教育委員会で集約し、できるもの、できないものの選別をし、学校に話をしている。また、新しい事業があった場合、校長会と協議をし、学校でできるかを判断し、すすめていくという手続きをとっている。教員の多忙化については、全国的な問題になっており、藤枝市は県の指定を受け、昨年度から、教職員の多忙化解消の研究をし、取り組みをすすめている。また、大きなものとしては、焼津、島田、藤枝で共通したデジタル校務支援システムを導入し、様々な帳簿を作成する場合、どの学校に行っても同じ手続きで、短時間で作成できるようになっている。生徒指導においても、短い時間の中で有効にできるシステムである。行政と学校が同じ方向に向かっていくのは大切だと思うので、これからもすすめていきたいと思っている。</p>
市民	<p>今回の新旧対照表を見て、ますます実践的になったと思う。施策2における家庭教育の支援の中の子ども食堂について、先日、先進地域を視察したが、実際、実施する運営する立場になると、運営資金の問題や、1度行くと頼ってしまい、逆に親が手を抜いてしまうという問題もあると聞いている。藤枝市でも一部始まっているが、子どもが成長段階で、対話の中で社会性を身に付ける場になると思うので、ぜひこれを緊急の問題として、力を入れて欲しい。</p> <p>施策4の安心・安全な環境づくりについては、最近不審者が多くなってきている。特に中心地から離れているところでは、少子化も激しく、下校時の特に危険が潜んでいるので、行政と地域が連携して安全な環境づくりを大きな事業として取り組んでほしい。</p>
事務局	<p>子ども食堂事業においては、担当課より、来年度からそのような事業を行う団体に助成を行っていくことを計画している。</p> <p>見守りに関しては、地域の方が中心に行っていて、感謝している。NPO に関しても、見守りをする団体として、ある地域では NPO 法人として立ち上がっている。行政としても、そのような活動を側面的に応援していきたいと思っている。</p>
市民	<p>最近あった話では、防犯カメラをつけたら、防犯カメラ自体を盗まれたということもある。神社の賽銭箱泥棒もいる。そのような常習犯がいて、対策が難しい。</p>
農業関係者	<p>1ヶ月前に、テレビで富士における子ども食堂の活動を見て、仲間とやってみようという話になり、静岡市の方であるが事業をすすめている。先ほども意見があったが、親の教育が一番大切だと感じる。子どもがやりたいと言っても、親がダメだと言えばそこで終わってしまう。親の意識の改革のようなものを子どもと一緒にできたらと思っている。</p>

事務局	<p>家庭教育の部分は、各委員からの意見も多いと感じているが、家庭教育について、踏み込むのは難しいとも感じており、どうしても啓発が中心になってしまう。現在生涯学習課において、小学校1年生の親に対して、家庭教育学級を行っている。また、その活動の中には、親子で何かするという活動も含んでいる。家庭教育学級は、小学校1年生対象であるが、幼稚園保育園への講師の派遣の補助も行っている。まだまだ不十分であると思うので、さらに充実するよう進めていきたいと思っている。</p>
学校関係者	<p>特別支援教育において、小中学校の義務教育を終えた子どもたち、特に知的の遅れのない情緒学級などの子どもの行き先がないことが問題になっている。冒頭で委員長が話された三島スクールが増えているのは、そのような子どもたちが行っているからである。ここ10年で、静岡県義務教育の子どもは約28,000人減っている。一方で、特別支援学級、特別支援学校に通う子どもが6,500人増えて逆行している。保育園だけでなく、小学校・中学校における知的の遅れがない子どもたちの強化的支援がされるとこのような差がなくなっていくのではと感じる。</p> <p>また、交流籍事業については、藤枝市では、とてもお世話になっていて、県内でも1番交流が多いと感じる。中学校での交流は、保護者や子どもが、通常級と発達に差を感じてしまうため、交流の希望が少ないが、藤枝市では、情緒学級などで中学校でも交流させてもらっている。交流籍については、沼津と藤枝では既に指定を受けて行っているため、5ヵ年計画としても、もう試行でよいのではないかと思う。</p>
事務局	<p>継続という位置づけについて、全体が体系化されていないものについては、検討にさせてもらっている。特別支援学級の子どもたちの進路先は限定されていて、そこは、大きな課題になっている。中学校側と高校側の協議を進める必要があると考えている。特別支援学級の子どもたちが、交流として、通常学級と一緒に授業を受ける時間は増えている。特別支援学級の子どもたちの学力向上にも力を入れていきたいと思っている。</p> <p>交流籍については、本年度沼津市と藤枝市が県の指定を受けて、研究を行っている。指定を受けているといっても、これまでも交流は行ってきた。研究ということで、県の制度が定まっていないことから検討とさせていただいたが、試行でもよいと思うので、検討させてほしい。</p>
学校関係者	<p>義務から特別支援学校に行く場合に、分校へ行く子どもたちがいるが、今分校の子どもたちの非行の問題などが増えていると聞いているが、実際どうなのか。</p>
学校関係者	<p>基本は同じであり、特別支援学校本校の高等部の知的な遅れが軽度の子たちが分校に行くという解釈である。最初、分校ができた頃、軽度の知的障害といったため、この本校にいる子どもより、もっと軽度の子がいる学校と勘違いした保護者がいる。また、特別支援教育のニーズが変わってきていることと、平成14年に就学の基準が変わったことによるものでもある。以前はIQで重度、中度、軽度、最重度で分けていたが、それ以来、IQではなく、社会生活の適応能力や生活能力があるかないかで分けてきたため、ある程度IQが高くても社会適応能力がない子は特別支援学校に入ってくるようになった。そのような、発達障害で学習をしてきていない子どもたちが手帳をもらえるようになり、その子どもたちが特別支援学校の高等部の</p>

	<p>分校に来るようになった。そこで課題になっているのが、コミュニケーション力不足、就職してから離職する子が増えている、余暇の利用ができない、仕事の間の休憩時間に人との関係が築けない、切り替えができないという点である。特に今特別支援学校の高等部についてはコミュニケーションと余暇利用について一生懸命指導している。</p>
学識経験者	<p>藤枝市の施策は、きめ細やかに、あらゆる分野に対応しているものだと感心する。ここ数年で、英語教育や理科学教育について、ものすごく変わったと感じる。教育日本一を掲げた時、この会議ではいつも何か目玉になるものがほしいという話題になる。しかし、それは授業であるという思いに落ち着く。全国から毎年藤枝市の授業を学びに多くの教員が視察に来る。そのぐらい藤枝の「授業は人づくり」という思想、「授業の中で自分の居場所、考えを持って、一人ひとりが自己実現していく」「自分の言動を自分自身で決定していく」という授業を、藤枝市では長年続けている。多くの事業の中でも、この藤枝の「授業」はもっと宣伝してもいいものであると思う。その上で大切なことは、この変化の激しい時代の中で生きる子どもたちに、授業の中で、あえて子どもに困難に直面させていくことで、藤枝の授業力が高められると思う。例えば、少子化で働き手がいらないから、外国の方に働いてもらいたいが、外国の方とは、文化やモラルの違いからいろんないざこざが起こる、そのジレンマの中で、自分はどうしていくのか、食料を輸入に頼っている中で、日本と違う基準の添加物のものが入ってくる、そのときに自分はどう考えるか、など、目の前に自分にどう対応していくのか、ということを経験の上ではなく、そういうシビアな状況を乗り越えていくということが、課題解決能力を高めていくということにつながると思う。</p>
事務局	<p>藤枝市では、「授業で人を育てる」を理念に、長年授業を大切にしている。これを、若い先生にも伝えていくため、「教師塾」や「藤枝型授業モデル」をつくり、学校で研修を行っている。これからもぶれずに「授業」を大切にしていきたいと思っている。難しい課題に直面したとき、子どもたちに乗り越えていく力を付けていきたいということは、どの学校でも意識している。その力をつけるために、あえて困難に直面させるような場を設定して子どもたちに考えさせる場をつくっていくのが大切だと感じた。</p>
市民	<p>親の立場からこの行動計画を見て、意見をさせていただく。子ども食堂について、子どもが歩いていくことを前提とすると、目標数値における補助団体が毎年5件となっているが、市内の小中学校は17校があるため、目標も17箇所であると良いと思う。</p> <p>施策2の学びのセーフティネットの構築において、学習チャレンジ事業や、青少年学習支援事業などがあるが、以前先進地視察を行った際、小学校5、6年生を対象にした、放課後の居場所づくりや基礎学力をつけるための週1回の国語や算数、月1回英語などを無料で行い、地域ボランティアとして教師のOBなどが指導を行っていた。本市でもこのような取り組みができればよいと思う。</p> <p>また、アレルギー対策の充実について、子どもが自分のアレルギーについてわかっているのが良いが、自覚していないものでも、体調などによって発症する場合もある。</p>

	<p>アレルギーが発症してしまった場合の対処法を先生に学んでもらえるといいと思う。</p> <p>施策 13 の部活動外部指導者活用事業について、小学校のスポーツ少年団で技術を磨いて成績を残してきた子も、中学校に入って、顧問に恵まれず、成績を残せないという話を聞いたことがある。顧問の意欲があっても、技術がないと成績が残せないなので、部活動の外部指導者が有意義ではないかと思う。</p>
事務局	<p>子ども食堂について、来年度からの取り組みということで、担当課から5地区からとなっているが、5箇所だとどめるという意味ではないと思うので、確認をしたいと思う。</p> <p>放課後の子どもの居場所づくりについて、ある小学校区では、そのような取り組みをすでに行っているところもある。また、学習支援ではないが、居場所づくりとして放課後子ども教室も行っている。今後、塾に通えない貧困家庭の学習支援についても考えていく必要があると思っている。</p> <p>アレルギー対策については、学校で、教員が対処できるように、ペンシル型の注射器の使用法の指導も行っているので、対処が可能である。</p> <p>部活動の外部指導者については、教員の多忙化も含め、中学校の部活動に関して考える委員会も立ち上がっている。今後、外部指導者についての積極的に活用するよう制度化するという国の方針もあるようなので、そこも含め、検討していく。</p>
学校関係者	<p>たくさん施策がある中で、先ほども話があったが、学校現場として、しっかり「授業で人づくり」を実践していきたいと思っている。また、そのために、27校の校長が出席する校長会には、学校教育監が毎回出席して、現場の声もすくいあげてくれているので、現場としては、やりやすくなっている。先日も、他市から現場に視察が来たが、藤枝の教育環境とは異なる点が多く、藤枝は恵まれた状態で子どもと向き合っていると強く感じる。</p> <p>その中で、行政の仕組みは予算によるものなので、その成果があるかないかを問うために、このような会議が行われるが、目玉の「授業で人づくり」については、お金ではないものだと思う。先輩教師の子どもと向き合う姿を見て学び、あこがれやうらやましさに、教員の意欲は動いていると思う。藤枝型授業モデルについては、若い人への育成として今後も伝えていきたいと現場としても感じる。また、そのようなシステムを行政がつくってくれるので、より現場は安心して子どもや保護者とも向き合っていける。</p> <p>一方で、前回の会議でも教員の多忙化について話したが、やはり、教師にとっては放課後の時間やゆったりと思考する時間は、子どもたちに返っていくと思う。学校ではやれることとやれないことがあるので、教員には、やれることを集中してやってほしいと伝えている。</p>
事務局	<p>教育行政として、先生方が安心して職務に専念できる環境を整えることが一番の使命だと思っている。子どもたちのために、と考えると、いろんな環境を整えてあげたいが、先生方のことを考えると、少し大変なのではないかと感じることもある。そこは、学校の先生方と協議しながら進めていきたいと思う。そのために、行政として、学校、地域、家庭の役割を明確にして協力して行っていきたいと思う。</p>

委員長	今の多忙の問題は、一言ですぐ直せるものではない。学校スポーツをこんなにやりすぎていいのかと思うことがある。また、顧問は必ずしも体育の免許を持っていたり、専門ではないことが多い。
学識経験者	学校の部活に関しては、外部指導者がという問題ではなく、部活動は地域に任せて学校から切り離すなど、根本から変えなければ解決しない問題であると思う。
学識経験者	<p>教員の多忙化の話題がでていますが、例えば福祉ですばらしいと言われているデンマークでは、共働きの家庭が多いが、学校では部活はない。子どもたちは学校が終わると学童保育に行っている。学童保育も小学校1年生～3年生、4年生～6年生、中学校、一部移民の多い地域では高等学校でも青年クラブがあり、それぞれの子どもが興味関心を持てる設備がハード面、ソフト面共に整備されている。その他には、地域にスポーツクラブがあり、日本でいう部活を地域が引き受けおり、日本のような教員の多忙化はない。</p> <p>また、デンマークでは、高校を中退した子どもを自治体が引き受けて、職業学校に通わせ、即職業に就けさせる。税金も高いが、国民を税金を納める側にしたいという考えもあり、しっかり受け止めている。日本でも、地域、学校、家庭と役割をしっかりと分け、何でもかんでも学校にという考えを改善できればと思う。</p>
委員長	やはり、全て学校で行うということに問題があるのかもしれない。
学識経験者	<p>今後、藤枝市として期待できると感じたのは、「校外活動の充実」で学校教育外の事業が増えていることである。また、地域全体で学校を核とした教育推進を図っていくということで、コミュニティスクール化を掲げているということにおいても、ただ単に地域学校協働本部を立ち上げるという形式上のものではなく、校外の活動を充実させるなど、藤枝市では土台ができていると思う。ここで、学校から役割分担を明確にするような仕組みづくりにチャレンジしていただければと思う。</p> <p>また、学童については、これから共働きも増え、学童も増えていくと考えられる。今は学童では、施設に入って宿題をやるのみになっていて、高学年になるとそれがつまらず、家に帰ってしまうという現状である。学童の支援員からも、なんとか子どもたちの発達に合わせた学童をやっていきたいが、場所やスタッフ不足が問題であるという話もあると聞いている。そのようなところとタイアップして、学校ではなくてもできることを増やすチャンスをつくれればよいのではと思う。</p> <p>また、親学についても、学童に来る子どもの親に啓発を行うといいのではと思う。例えば、ふじえだマナーの啓発と教育マイレージについても、マナーを実践するとポイントがたまるなど、これらをうまくからませて実施できればと思う。また、どんな学年でも親は悩みがあると思うので、親学も小1に限定せず、他の学年でも行うなど、いろんな子どもを持つ親が何か学び、それを実践し、実践したことをマイレージで褒めてもらい、最終的に子どものことを良くしてあげられるようになれば、地域で子ども育てる意識が醸成されるような藤枝になると思う。</p>
団体代表	子ども食堂について、藤枝市でも2団体が子ども食堂を行っており、携わっているが、月1回行っており、子どもは1回100円、大人は300円で始めている。1団体はモデル事業として市から補助をもらって行っている。テレビで見る子ども食堂は、いろんな事情の人が気軽に来ることができる理想型であるが、まだ藤枝市で

	<p>はそこまでできておらず、個人情報の問題であったり、そのような家庭にピンポイントにその情報を提供できていないなど、非常にデリケートな問題がある。そのため、藤枝では、敷居を低くして、誰でも来れるという形で行っている。また、手伝ってくれる人が障害者や小学生などもおり、これぞ共生社会であると感じる。地域であれば、気軽に来ることができ、地域の人たちに見守ってもらえるような子ども食堂が理想型だと思う。</p> <p>先日講演会で聞いた話であるが、日本は自殺がワースト6位であり、若年層の自殺も多い。藤枝市では、藤枝型ピアサポートがさかんで、先生方の工夫で、様々な手法で子どもの心を育てている。マナーブックなども継続してほしいと思う。</p>
学識経験者	<p>行動計画を見て、様々な分野で施策が行われていることがわかる。施策2の藤枝型奨学金制度とはどのようなものか教えてほしい。</p>
事務局	<p>まだ、具体的な形にはなっていないが、今後、策定、検討していくものである。国では、給付制度が組み立てられており、市では、勤労者に対する利子補給は既に行っている。今後、国や県の制度化もふまえた上で、給付の対象者に、より救済ができるような形で、市として、大学受験等推進していく上で、制度拡充という形で制度設計を検討していきたいと考えている。</p>
学識経験者	<p>子ども食堂や家庭教育について、親学が大切という話があったが、今の親の教育も大切であるが、今の子どもたちが親になるので、人づくりが大切であると思った。</p>
事務局	<p>子ども食堂について、一般的には一人親家庭への支援として主眼でやっているところが多いが、委員が携わっている団体のように、誰でも来ることができる子ども食堂もかえってよいのではと思う。もちろん、対象である子どもが行きづらくなっているはいけませんが、地域のコミュニティが失われていると言われていた現代で、限定しないという方法でやっていくのも、地域としてよりよくなっていくということもあるのではないかと感じた。本市では、共生社会を目指してやっているの、ひとつの良い実践例となっていくのではないかとと思う。</p> <p>ピアサポートについては、本当に各学校で工夫をしており、学校に行くと、子どもたちが来校者にいつも元気に挨拶をしてくれる。授業でもいい発表には拍手をするなど、ピアサポートがかなり定着していることを感じる。このように、今の小中学生をしっかりと育てることで、その子どもたちが親になったときに、違う形の親の世代になっていくのではと思う。今のピアサポートが今後、しっかり実をつけるのではないかと期待している。</p>
委員長	<p>教育というのは、今やっていることの結果がでるのは20年30年先である。今藤枝市は、教育のモデル地区を目指している。今後、学校の基本的な見方についての改革が問われていくと思う。教育は今大転換期にあると思う。例えば、教育の無償化と言われているのに、なぜ予備校産業が拡大しているのか、など教育のあり方について、藤枝市で議論できるとおもしろいと思う。</p> <p>また、教育をつくるのも、まちをつくるのは住んでいる人であると思う。藤枝市が将来どんな人が住んでいて、どんな都市になりたいかによって求められる教育は変わってくる。藤枝市が研究科学都市になりたいのか、頭脳都市になりたいのか、大学学園都市になりたいのか、など、そのための教育は何か考える必要がある。</p>

	行動計画を見て、今は教育のレベルを上げる、質を上げるため、これで十分だと思うが、今後、10年20年先の教育を考える上で、そのような大きな視点が必要だと思う。
事務局	目まぐるしく変化する社会であるからこそ、地に足をつけた教育が大切であると改めて思った。この計画案は、今後、市議会やパブリックコメントなどを経て、市民の皆さんの意見を反映して、最終的な案と策定していく。その結果については、次回の会議の中で報告させていただく。本日のご協議に感謝申し上げます。